## 南区"たからもの"マップ

6 光福寺

安置されています。

じゅんさいいけ 7 じゅんさい池



富合 とみあい

ろくやたばし 1 六弥太橋



加藤清正が小西行長の宇土城を攻撃した 際に活躍した小西軍の庄屋久兵衛に、清正 は改名を許しました。その名前が藤井六弥 太で、敵の攻撃を防ぐためにこの橋を自ら 落としたことから、六弥太橋と呼ばれるよう になりました。

まいのえこうみんかんのきよまさぞう 2 廻江公民館の清正像



公民館の中に祭ってある清正像の台座には 蛇の目と桔梗の紋が見られます。この地域 は元々洪水に悩まされていましたが、清正 公の治水工事で洪水がなくなり



かつて沼地であったこの地域も、清正公の 開墾事業で田畑になり米が取れるように なりました。そこで清正公に感謝する農民 の手でお堂が建てられたと言われています。

4 雁回山九十九谷



[伝説]鎮西八郎為朝が家来の鬼に褒美を 聞いたところ、「人を食いたい」などと無茶 を言う鬼に対し「一夜にして百の谷を掘っ たら」と約束してしまいました。ところが鬼 は九十九の谷を掘ってしまい、残るはあと ひとつ。慌てた為朝は大急ぎで傘を手に とり、鶏の羽ばたきと鳴き声の真似をしてみ せたのです。鬼は朝が来たと勘違いして谷 を掘るのをやめ、褒美をあきらめたという ことです。写真は浜戸川から見た雁回山。

きわらふどうそん 5 木原不動尊



日本三大不動のひとつで、2月28日の春季 大祭では、「火渡り」や「湯立て」などが奉納 され、県内外から多くの参拝者が訪れます。 

お気に入り スポットを 見つけよう!

きゅうりん

浄土真宗本願寺派の寺で、釈迦如来像が

加藤清正が六殿神社に奉納したと言われ る池。和食の食材に使われるじゅんさいが

採れたことからこう呼ばれるようになりま

した。夏には蓮の花が咲き、池の周りには

※解説はマップ面をご覧ください。 **漬** 

写真は平成28年の熊本地震で崩壊する前の

「井樋橋」。※解説はマップ面をご覧ください。

かんのんじとふないたかんのん

永平寺の開祖道元禅師が宋から帰国時、

南海で船板に彫り付けられた観世音像を

開眼され、観音寺に奉納されました。老朽

化が進んでいましたが、平成12年(2000)

清田家は豊後大友氏の一族で、初代五郎

太夫は細川忠興の家臣となりました。明治

9年、10代勝太郎の居宅として建てられ、

維新後の藩士の暮らしぶりを示す重要な

建造物です。[熊本市指定有形文化財]

に再建されました。

11)清田家住宅

10 観音寺と船板観音

桜の木が植えられています。

8 六殿神社楼門

[国指定重要文化財]

9 井樋堰

ろくでんじんじゃろうもん



城南 じょうなん

くまのしょうじょうあと 12 隈庄城跡



中世における益城地方の最も有力な山城で、 天正15年(1587)、九州平定の際に豊臣 秀吉が宿泊したと言われています。急坂を 登り詰めた高台の公園からは、南区ののど かな景色が一望できます。

くまのしょうしょうてんがい



装路と、昔ながらの間口が 狭く細長い建物が続きます。毎年3月11日 と12日には初市が開かれ賑わいます。商 店街の界隈にはお寺が建ち並び、通りから お寺の静かな佇まいを見ることができるの もこの商店街の特徴です。写真の寺院は

きゅうひごぎんこう 14 旧肥後銀行



隈庄商店街の一角に、以前は銀行だった レトロな石造りの建物があります。現在は 個人のお宅です。

しもだのいちょう 15 下田のイチョウ



※解説はマップ面をご覧ください。 [国指定天然記念物]

16 御領貝塚



縄文時代後期の貝塚で、総面積約4ヘク タールと西日本最大級の大きさです。土器 の他に、石斧や貝輪、土偶など多数の遺物 が出土しています。小高い丘一面に広がる 貝殻は壮観です。[国指定史跡]

あだか・くろはしかいづか 17 阿高・黒橋貝塚 浜戸川の南に大正5年(1916)に発見され た阿高貝塚、北には昭和47年(1972)に 発見された黒橋貝塚があり、縄文時代中期 を代表する阿高式土器の標式遺跡で、多数

の人骨も出土しています。黒橋貝塚は公園

として整備されています。 [国指定史跡]

つかわらこふんこうえん 18 塚原古墳公園



国内最大規模の「塚原古墳群」は、紀元4 世紀から6世紀にかけて築かれ、約500 基の古墳が存在したと推定されています。 広大な公園内には、77基の復元された古 墳や、熊本市塚原歴史民俗資料館、熊本 県民天文台などがあり、桜やコスモスなど の季節の花が咲くきれいな公園です。 [塚原古墳群=国指定史跡] i P

19 メリ穴公園



阿蘇火砕流堆積物が湧き水により浸食され てできた洞穴で、古代信仰と結びついた「参 り穴」転じて「メリ穴」と呼ばれるようになり ました。内部では湧水が今も絶えることな く流れ続けています。江戸時代の「肥後國 誌」にも登場し、「夕方鶏を洞穴に入れたら、 翌朝には宇土市の轟水源で鳴いた。」という 伝説が残っています。現在、洞穴の中に入 ることはできません。 i P

つるよこあなぼぐん 20 鶴横穴墓群



メリ穴公園の周辺に分布する横穴墓群のひ とつで約20基からなり、丸と四角の飾り縁 が並びユニークです。 室町後期の作。六地蔵は地蔵信仰による もので、六道(地獄、畜生、餓鬼、修羅、人間、 天人)に迷う衆生の救済や悪疫流行から

おぎあそじんじゃのくす 21 小木阿蘇神社のクス



樹齢約400年、高さ20m、根回り12mの 大クスが境内にそびえ立っています。また、 境内には樹齢約150年の夫婦杉(しあわせ すぎ)も仲良く立っています。

22 平井戸水源



正面の崖下や池の底から清水が湧き出し、 浜戸川の支流に注いでいます。昭和47年 (1972)の大水害時土砂で埋没しましたが、 周辺住民の手で蘇りました。 [熊本水遺産]

29 浜田阿蘇神社



飽田 あきた

除川河口を利用して作られた漁港には、たく

さんの漁船が係留されています。有明海に

沈む夕日は絶景です。

意外と

知らなかった

歴史や新たな 発見に びっくり

天明 てんめい

大慈禅寺開山の寒厳禅師によって建てられ、 地元では「年(歳)神さま」と呼ばれています。

第17代宮司太田黒伴雄は、「神風連の変」

の首領であったことでも有名です。その神

風連調査研究のため三島由紀夫も訪れ、

代表作「豊饒の海」の第二巻「奔馬」に「神

おくこがろくじぞうつけたりこうしんとう

住民を護持するため村境や辻に建てられた

さんびゃくろくじゅうどのぱのらま

周囲が大きく開けた海岸からは、有明海、

雲仙、金峰山、阿蘇、雁回山などが一望で

熊本水遺産にも登録されている広大なヨシ

原です。 熊本県のレッドリスト (絶滅のおそ

れのある野生動植物)にも掲載されてい

ます。ヨシは水質を浄化するそうで、江戸

時代から海苔の製造に用いたりすだれにし

ていたそうです。

き、特に夕日がとてもきれいです。

みどりかわかこうのよしはら

28 緑川河口のヨシ原

ものです。[市指定有形文化財]

27 360度のパノラマ

26 奥古閑六地蔵付庚申塔

風連史話」を記しました。

24 歳星宮

25 新開大神宮

毎年10月17日には。約300年前に五穀 豊穣を祈り始められたと言われる獅子舞 が奉納されます。

ごんどうじんじゃ



る神社で、中世にはこのあたりが海岸であっ たことから、海兵の守護神だったとみられ ています。

31 砂原阿蘇神社



元和元年(1615)に建立された神社で、市指 定保存樹木のイチョウの木があります。





境内には、市指定保存樹木の大楠が二本 あり、また淡島さんを祀った別殿の前には 小さな鳥居もあります。

たむかえいきめじんじゃ 33 田迎生目神社

幸田 こうだ



田迎神社の境内にあります。一説では、宮 崎生目神社に参拝した篤志家が「御札」を 受け、祠に納めたことから「目の神様」と言 われているそうです。

しせつえんげいはっしょうのちきねんひ 34 施設園芸発祥の地記念碑



「花のまち」と言われるほど花卉の生産が盛 んです。この祈念碑は、平成12年(2000) 田迎花卉園芸生産組合創立20周年を記念 して建立されました。(田迎2丁目公園内)

35 山田神社



加藤清正が、軍用米の出来具合や風水害 日向往還は、鎌倉時代から肥後と日向を 等の状況視察に訪れた時の接待所として 結び、多くの人々の暮らしを支えた古道で 設けられた仮屋の跡です。神社内には市指 す。肥後国内の主要街道には、一里(約 定保存樹木のイチョウが二本があります。 4km) ごとに通行人の目印になるように木 札や木を植えていました。

めいじてんのうみゆきおのだてしょ



明治35年(1902)、陸軍特別大演習が熊 本で開催され、明治天皇が約1時間演習を 統監しました。演習終了後に円形に整列 した将校連の中央に立って講評した場所 です。[市指定記念物史跡]

37 笛田神社



笛の上手な神様が笛を投げ、里人がその 笛をご神体としてお祀りしたのが始まりと 言われています。境内には、加藤清正が 焼失した神社を再興するときに植えたと伝 わる樹齢約500年の大イチョウがあります。 38日向往還一里木跡



住民、氏子の協力で再建を果たしました。



神社の東側には光明寺という禅寺があり ましたが、明治維新の際廃寺となりました。 本尊の阿弥陀如来は近くの明乗寺に保管 されています。



ほど前、旧薩摩藩の念仏禁制で肥後藩へ 移りました。長六橋のたもとに建立されま したが、西南戦争の際に焼失し現在の場 所に移築されました。隣には保育園もあ ります。

平成11年(1999)の台風18号で、創建 記念木の大イチョウが根こそぎ倒れ、社殿 がすべて倒壊してしまいましたが、翌年地区



約400年前に加藤清正が整備した農業用 水路です。大井手から分流した3つの井手 の2つで、加勢川に注いでいます。熊本の 米作りの源となっています。

ほうぎゅうじぞう 43 放牛地蔵



江戸中期、高僧「放牛」が建立した100体 を超える石仏の第一体です。放牛が小さ い頃、父親に酒を買いに行くよう頼まれま したが、ためらっていた放牛に父親が薪の 燃えさしを投げ、通りかかった武士に当た りました。武士は父親を切り殺したため、 放牛は出家し10年で100体の地蔵を彫り 父の霊を慰めようとしました。木原不動 尊の石段横に64体目があります。

たばたすがわらじんじゃ

60 田畑菅原神社

南部 なんぶ

くまもとはんかわしりこめぐらあと 44 熊本藩川尻米蔵跡



江戸時代に緑川や加勢川を利用して熊本 藩の年貢米を集積・搬出する拠点になって いたところで、外城蔵は年貢米庫のひとつ で「川尻の御蔵」と呼ばれ、一度に二万俵 の米を収めることができました。「熊本藩 川尻米蔵跡」として外城蔵跡、船着場跡、 御船手渡し場跡が国の史跡に指定されて います。[国指定史跡]

45 薩軍本営跡



日に鹿児島を出発した薩軍は、川尻に熊本 鎮台攻略の拠点を構えました。2月21日 に到着した西郷隆盛はこの地に宿営し、 「新政大総督征夷大将軍西郷吉之助」の 表札を掲げ、熊本城攻撃のための本陣を 置きました。熊本市の景観形成建造物と して今も当時の姿をとどめています。





慶応3年(1867)創業。赤酒を唯一の地酒 として製造していた当時の肥後でいち早く 清酒の製造に取り組んだ酒蔵です。瑞鷹 本社、吉村邸、倉庫は「景観重要建造物」に、 瑞鷹酒蔵資料館と蔵1棟は「景観形成建造 物」に指定されています。

かわしりこうかいどう 47 川尻公会堂



(1930)、瑞鷹株式会社の吉村 彦太郎氏によって地域社会発展 のために寄贈されたものです。

きむらまさひこをそだてたどうじょうあと



木村政彦は、大正6年(1917)に川尻町に 生まれ、全日本選手権13年連続保持、天 覧試合優勝など輝かしい戦績を残し、「木村 の前に木村なし、木村のあとに木村なし」と 讃えられた伝説の柔道家です。木村が小学 校時代に柔道の基礎を学んだ道場跡です。

でいょうじんじゃ 49 古城神社



鎌倉時代から室町時代にかけて約220年 間、川尻港を利用した交易などで地域の 発展に貢献した河尻家に対し、熊本藩主 細川斉茲はその功績をたたえ歴代の河尻 城主を祀る神社を建立しました。

かわしりじんぐう 50 河尻神宮



別名、若宮(わかみや)さんとも呼ばれるこの 神社は、建久8年(1197)河尻三郎源実明 が、鎌倉の鶴岡八幡宮の御分霊を勧請した のが始まりと言われます。創建時は富合町 小岩瀬にあったものが、天正15年(1587) に現在地に移されました。毎年恒例の秋 の例祭(10月17日)には、下がり馬や流鏑 馬が奉納されます。

51 52 53 54 55 56 六菓匠

平成2年(1990)、川尻を和菓子の町とし て広めるために、6軒の和菓子店が集まっ て「開懐利六菓匠(かわせりろっかしょう)」 というグループを結成しました。"開懐世利" とは、中国・明の時代の地理書に記され ていた川尻の古名です。 平成 26年 (2014) にはサントリー地域文化賞を受賞しています。

しいだのえんまどう

ひよしじんじゃ

ちかみじんじゃ 59 近見神社



勅願所(天皇が国の安泰を祈願されるとこ

厚く信仰されました。鳥居の下には可愛

い「神猿」二体が鎮座しています。「魔猿」

とも言い、魔が去るという意味だそう

住宅密集地の中に、ひっそりとたたずむ近

見神社。長く続いた神仏習合の時代から、

明治5年(1872)太政官達によって神仏分

離し、神社本来の姿になりました。 ▮

ろ)として創建され、細川家の産土神として

鎌倉時代に国家安全を祈り、 菅原道真公をご神体として祀ってあります。 閻魔王の像を安置したのが始まりと言わ 自動車販売会社に挟まれた細い参道を入 れています。熊本地震で被災しましたが、 ると、小さな神社の祠が現れます。 地元住民有志で復興委員会を設立し再建 あまごいだいこ ちかみまちこうみんかん されました。毎年8月16日に「エンマさん

61 雨乞い太鼓(近見町公民館) 祭り」が行われています。



ています。水不足の時には村の中を太鼓 を叩き、女性が踊りながら練り歩いたと言 われています。 さるたひこだいみょうじん

62 猿田彦大明神



言い伝えがあります。

明治の初めごろまでボヤが続いたため、火

の神様の猿田彦大明神を祀ってお祭りを したところ、その後火事が治まったという

